

京都大学公開講座 受講生の感想

3. 生命科学Bコース

第2回、第6回 村瀬 雅俊先生

「統合生命科学への招待(1)(2) —生命現象の包括的理解—
—生命現象の構成的認識の理論と実践—

- ◎ 目から鱗が落ちたと思わせられる授業であった。 ” 「わかる」という事はどういうことなのかをわかる。 ” というテーマは、普段全く考えたことのないものであった。視覚の錯覚実験やスプーンでの目隠しというユニークな授業内容であったためか、1時間半もの時間がもっとも短く感じられた。生物学的な事が中心だったが、専門的知識は全く必要としない授業内容であったので、私にも身近に感じられた。
- ◎ 今回の講義は、哲学のような要素が強かったので、頭をあっちこちに揺さぶられているような気だった。理論が難しく理解しづらいところもあったけれど、新しいものの見方を知ることができたように思う。
2回目と連続した講座で、1回目で解らなかつたことが少し解つたように思えた。スライドがおもしろかった。内から外への論理は、前から知っていたけれど、改めて説明してもらおうと新鮮な感じがして、また新しい発見もあった。
- ◎ 話の内容はとても難しかったのですが、 ” おどろき ” や ” 発見 ” をたくさん経験することができ、とつてもためになりマシタ。
- ◎ この回は大学生はいなくて、内容のレベルは前回ほど難しくなかつたです。先生も分からなかつたら、根気強く説明して下さい、優しくなつたです。
第2回目の続きで、先生も、楽しく受けられるようにと、色々な工夫をして下さつて、ゲームっぽい感じで、理解もしやすかつたです。
- ◎ あらかじめ第2回講義の「簡単な内容」を読んでおいた。意味不明だった。覚悟して授業を受けると、なんと心理学的な内容に近い話もあつて、大変興味深かつた。同じAという事象が2側面A, \bar{A} をもち、それをひとまとめに考えることによって理論が無限に広がっていく…。とにかくおもしろかつた。
第2回の講義の内容を、実際に経験することで理解を深め、理論の拡張を行った。そのため、すごく難解な内容も、かなり分かりやすかつた。思考の再構築を行い、当然とされている事実をもう一度確認することが、新たな発見の糸口になることを理解した。
- ◎ 講義が始まって、しばらくは、なかなか授業についていけませんでした。でも、そこであきらめるのではなく、できる限りのことを学ぼうと必死になつて先生の話聞いて理解しようと思いました。全く関連性がないように見えることが、構造や原理の面で共通した部分を多く持っていることを知り、大変驚かされました。
前期最後の講座となり、もう一度気を引き締めて講義に臨んだ。難しく、なかなかすぐには理解できないところもあつたが、物事の正しいとらえ方、理解の仕方を学ぶことができ、自分の頭に新鮮な空気を送り込む講座となつてよかつた。
- ◎ 難しいというか…。分かるような、分からないような…。感覚的な話に感じられた。理屈の1つ1つは分かるのだが、その理屈のスポットを縮めていくと分からなくなつてしまった。広い視野を持つ事をしていかなければならない。
前回より分かつたが、非常に抽象的な内容であるために、自分でもこんがらがつてしまふ所が多々あつた。理学の内容から精神にいたるまで考えるという教授の考え方の広さはすごいと思つた。
- ◎ 論理が理解しにくかつたのがあつた。湯川博士の記念館は置いてある物に興味を持つた。
2回目と同じで、論理が中心だった。理解できない点、納得し難い点もあつたが、興

味深いものもあった。

- ◎ 今まで自分が考えていた生命科学とは違う感じで、度肝を抜かれた。先生も「今までとは違う観点から生命現象を理解してください。」とおっしゃったが、なかなか理解するのは難しかった。

第2回目の講義と同様に、先生の指示にしたがって違った角度から生命現象を理解するという内容の講義で、1回目よりも理解が深まった。心理学に関する内容の話もあり、将来役に立ちそうな話もあった。

- ◎ この回は講義内容がさっぱり分からず、ちんぷんかんぷんだった。理解は全然できなかったが、「こんなことは高校では絶対に学ばないなあ。大学ではこんなことも学べるんだなあ。」ということが分かっただけでも収穫。

この回を受けて、やっと第2回の内容の意味が少し分かった。やっぱり難しいことは難しかったですが。

- ◎ 生物界、生命科学の包括的な理解の仕方を教えてくださった。言いたいことはよく分からなかったが、新しい考え方（というよりは、今までなかったことが不思議な）だった。講義が終わって、2、3日後まで（分からなかったので）、友達と話し合った。

第2回目続くが、村瀬先生の講義はできたら来年の人にも受けてほしい。生命科学をする上で、必要な考え方だと思うからだ。

- ◎ 一番印象に残っているのは「すべての物は同一の過程で異なる展開をしている。」ということです。具体的に生物の何かを説明するのではなくて、もっと生命科学全体を広い目で見たときのことを話して下さいました。2、6回は他の回とはまた違う感じで、とても良かったです。一番この公開講座の中で印象に残っています。

- ◎ 抽象的な話が多く、理解するのが大変だった。でも、今、自分が常識だと思っていることが、見方を変えると間違っていたりすることを知って、感動した。

ものの考え方がこの講義を聞く前と後では変わった気がする。いろいろな方向から物事を見るということを教えてもらって、本当に感動した。

- ◎ 少し話は分かったけど、奥が深すぎて難しかった。

目の錯覚を起こすようなおもしろい絵を見せてもらえたのが楽しかった。